

TAJIMI
CUSTOM
TILES

PRESS RELEASE
2024 October

Claire Clément exhibition "Shades of matter"

tajimicustomtiles.jp



Tajimi Custom Tiles Gallery では、インダストリアル・デザイナー、クレール・クレモンのエキシビションを開催します。クレールは今年6月から2ヶ月間多治見に滞在し、Tajimi Custom Tiles を運営するエクシズ内の小さなファクトリーでタイル制作を行いました。彼女がものを作る／デザインする際に重点をおく素材とサーフェイス。実験的プロセスを通して用いる素材を反応、変容させながら生まれた4つのコレクションからなるタイルは、とても豊かな表現力を宿しています。

会期：2024年11月1日（金） - 11月16日（土）

OPEN：11:00 - 17:00 休み：日曜日

会場：Tajimi Custom Tiles Gallery（岐阜県多治見市旭ヶ丘10丁目6-49）

※トークイベント開催 11月16日（土）16:00 - 17:00

スイスのデザイナーと日本の製造業者をつなぐ協働レジデンス・プログラム始動を記念しトークを開催！（詳細はP4）



Claire Clément exhibition "Shades of matter"



自然や環境への意識、工業的なものづくりの様子が大きく変容する現代において、いかに素材と正直に向き合い、新しいことにチャレンジできるか。素材の探求を軸に、そこから得られる知識、経験、感覚をクリエイションへと転化していくフランス人デザイナーのクレール・クレモン。多治見を訪れた彼女がまず感じたのは、この地におけるタイルづくりの多様性でした。

「単に粘土や釉薬といった素材の組み合わせだけでなく、タイル製造のプロセス、技法、形状など、産業として幅広い仕組みが存在する。そこに人の手が複層的に重なり合うことで、無限のクリエイティブができるように感じました」

土の独自性もさることながら、多治見のタイルづくりがヨーロッパのそれと最も異なる点は、微細な表情の違いに個性を見出し、モノの価値を一つひとつ丁寧に見極めながら、生産体制を整えている点。

「工業用タイルは一般的に生産の効率性や品質保持のために、一定の規定のもとに工程を標準化しています。そのため、安定したクオリティを担保する一方で、どうしても表情がフラットで個性が乏しいものになってしまいがちですが、多治見のタイルづくりと向き合っていると、ゆらぎや曖昧さのなかにも美しさは存在する。自然とそんなふうに思えてくるんです」

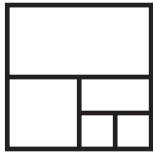
土や釉薬という不均一で不安定な素材でも、手間をかけてコントロールすれば、持続的なものづくりにつながる。感覚的な見立てだけでなく、工業へと発展していくために地域が一体となり、懸命に仕組みを維持している状況も多治見らしさと捉え、そのストーリーをクリエイションのなかに重ねていきました。

Tajimi Custom Tiles Galleryでは、2024年6月から2ヶ月にわたり行われた、Tajimi Custom Tiles アーティスト・イン・レジデンスのなかで、クレアが開発した作品とそのプロセスを紹介します。

Claire Clément クレール・クレモン

1997年フランス生まれ。サンティエンヌ高等美術学校でプロダクトデザインと生物学を専攻した後、パリの ENSCI- Les Ateliers でインダストリアルデザインの修士課程修了。フランスの Moreau Kusunoki Architects、Cigüe Architecture でのインターンシップを経て、Tajimi Custom Tiles にて2ヶ月レジデンス。2024年よりスイスのピーター・ズントーの建築事務所にデザイナーとして所属する。





TAJIMI
CUSTOM
TILES

PRESS RELEASE
2024 October



Fold / 折り

平らな紙を折り曲げたときに折り目に現れる緩やかな光のグラデーション、それが物質に与える微細な印象の違いをタイルで実現させるためのトライアル。折りの強さや傾斜角に応じて、釉薬の流れが重力によって変わる様子にも注力した。



Ripple / 波紋

多治見で見つけた異なる質感の紙片を、手でぎゅっと握ったり、くしゃくしゃ揉み込んだりしながら、その個性をタイルに映していく。素材だけでなく、手漉きと機械漉きの違い、紙にかけられる圧力の強さや時間によって多様な変化が生まれる。



Furrow / 溝

Fold、Rippleと同様に、紙から発想を拡張させていったコレクション。細かく連続的なものから、大きく不連続なものまで、山折り、谷折りを自由に実践しながら、溝模様の可能性を探求。そこから独自のパターン、釉薬、構成を編み出した。



Action / 作用

工場でタイル職人がハンマーを用いて鑄造している様子を見て発想したもの。身近な道具やものづくりの現場で見られる行動パターンを、タイルのデザインへと転用。同じ道具、同じ動きからいかに多様な表現が生まれるかにトライした。



「Design with Japan」ースイスのデザイナーと日本の製造業者をつなぐ協働レジデンス・プログラムに選出された2名のデザイナーがスイスから来日。11月4日から3週間多治見に滞在し、Tajimi Custom Tiles と地元メーカーとの研究／制作がスタートします。

【TALK EVENT 開催決定！】

2名のデザイナーを迎え、Tajimi Custom Tiles のクリエイティブ・ディレクター、ダヴィッド・グレットリをホストにトークを行います。※逐次通訳有、参加無料、予約不要

日時：2024年11月16日（土）16:00 - 17:00（17時～カクテル）

会場：Tajimi Custom Tiles Gallery（岐阜県多治見市旭ヶ丘10丁目6-49）

出演：Noelani Rutz（プロダクトデザイナー）、Anthony Guex（プロダクトデザイナー）

ダヴィッド・グレットリ（Tajimi Custom Tiles クリエイティブディレクター）

■ Design with Japan - 日本と共にデザインする

スイスのデザイナーと日本の製造業者をつなぐ協働レジデンス・プログラム

スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団と在日スイス大使館が支援するプログラム。日本の製造業者の専門知識とスイスの若手デザイナーのイノベーション力を結び、デザインの限界を押し広げる異文化間のコラボレーション環境を育成することを目標とし、プロトタイプの開発、展示、そして広報活動を通じて行われます。プロジェクト第一弾は、松澤 剛（株式会社E&Y代表取締役・大阪芸術大学短期大学部デザイン美術学科教授・グッドデザイン賞審査員）、ダヴィッド・グレットリ（クリエイティブ・ディレクター）、レティシア・デ・アレグリ（デザイナー、クリエイティブコンサルタント、カラースペシャリスト）により選出された2名のデザイナーが多治見に3週間滞在。ダヴィッド・グレットリのメンターシップのもと「Tajimi Custom Tiles」と地元メーカーの工房で素材や製造工程の調査・研究。デザイナーは3つの方向性のプロダクト・タイポロジー（①セラミック食器セット ②プランター&シンクシリーズ ③セラミックタイル）のうち、1つのデザイン・コンセプトを開発します。

その後プロトタイプ制作を経て、2025年6月に日本で成果発表を行います。

プロジェクトについて>> <https://vitality.swiss/jp/articles/2024/design-with-japan>

問合せ先：Mayoly Marie（スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団）mmayoly@prohelvetia.ch

高橋優子（在日スイス大使館）yuko.takahashi@eda.admin.ch



Anthony Guex

スイス・ローザンヌを拠点に活動するプロダクト／インテリアデザイナー。家具職人、木材産業で7年以上の経験を経て、the HEAD-GenèveとECALで学び、現在は自身のスタジオとECALの副担当官として活動し、New Tendency, Okro, Tectona, Ecal, and Fogo Island Workshopsなど国際的なブランドとのコラボレーションしている。

@anthonyguex
<https://anthonyguex.ch/>



Noelani Rutz

スイス・チューリッヒを拠点に活動するプロダクトデザイナー。shigeki fujishiro design（日本）、Jörg Boner productdesign（スイス）で経験を積み、2023年に自身のスタジオをオープン。細部にわたるシンプルさに鋭い目を向ける実践的なアプローチは、伝統的な工芸品、素材の研究、実用的なソリューションを思慮深く組み合わせることを重視している。

@noelanirutz
<https://noelanirutz.com/>